〈身近な工具でオリジナル・ギター製作〉

THE INSTRUMENTS SPECIAL

ギター まるごと作っちゃおう！

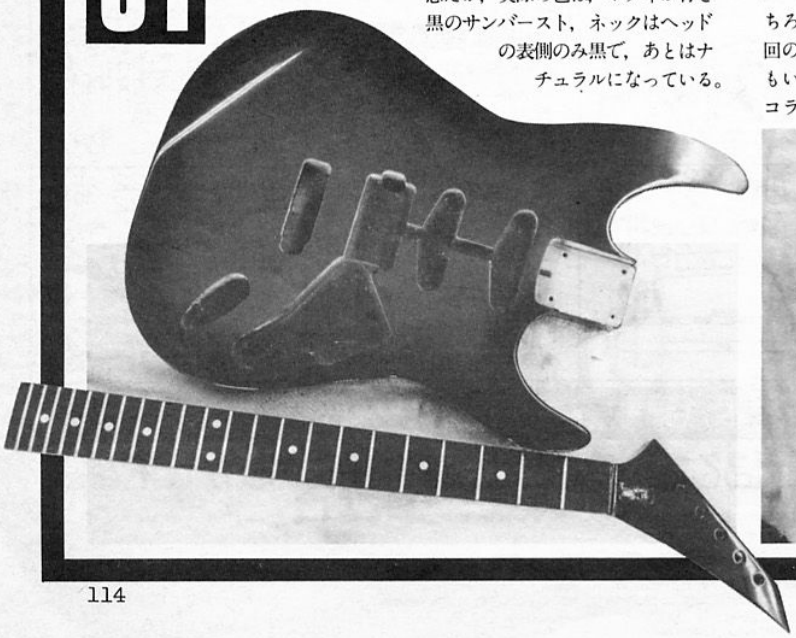
Part3 ペイント編

6カ月も間が開いちゃってゴメン。3月号のボディ篇，5月号のネック篇に続いて，今月はペイント篇をお送りしよう。ギター製作もいよいよ後半戦だ。最後までがんばってくれっ！

取材協力／ESP ミュージカル・アカデミー　イラスト／佐原輝夫

01 完了図

まず最初に塗装が完了したところを見てもらおう。モノクロ写真で残念だが，実際の色は，ボディが青と黒のサンバースト，ネックはヘッドの表側のみ黒で，あとはナチュラルになっている。



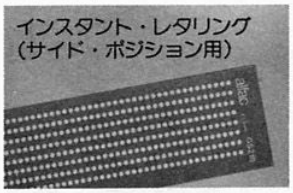
今回は初心者にも簡単にできるようにということで，このようなサンバーストを選んだわけだが，色はもちろん自分の好みでよい。また，今回のやり方を応用してできる塗装法もいくつかあるので，それは最後のコラムで簡単にふれておいた。

02 必要なもの

●下塗り，中塗り，着色，上塗りで使うもの

▲スプレー式ラッカー（透明3本，白1本，青1本，黒1本）とサンディング・シーラー1本

インスタント・レタリング（サイド・ポジション用）

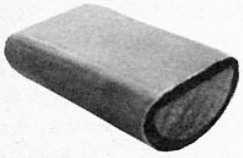


マスキング・テープ

サンドペーパー（#150，#240，#320）

必要なものは以下のとおり。入手が比較的容易なものでまとめてみた。いわゆるプロの使うものとはちょっと違うけれど，これでも十分満足のいく塗装はできると思う。要はヤル気！

▼バット



●タオル　●布

●水とぎ／バフで使うもの

▲石けん，バット，サンドペーパー（＃800，＃1000），布，水の入った洗面器

コンパウンド(細目)

ギター・ポリッシュ

03 予習

本題に入る前に大ざっぱなところを簡単に予習しておこう。

まず，今回の作業を大きく分けると表1のようになる。

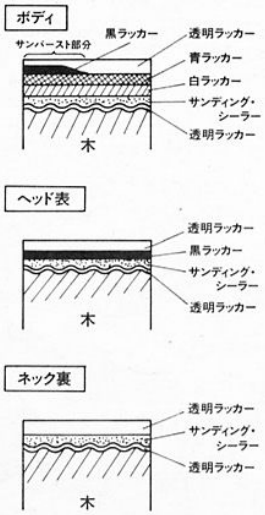
上から説明すると，①下塗りは，木から出るヤニを止めるため及び多少の目止めをするためのもの。②中塗りは木のスジや導管を埋め，塗装面を平らにするためのもの。③着色は文字どおり色をつけることだが，今回作るギターはボディは青と黒のサンバースト，ネック裏はナチュラル，ヘッド表は黒という具合いに部分によって塗料の重ね方が違う。そこを下の図Aで確認しておいて欲しい。なお，青の下に白を塗るのは，青のような中間色だけでは木目が透けて見えてしまうことがあるから。ちなみにヘッド表は黒で塗りつぶしてしまうから，下地に白を塗る必要はない。④上塗りは，着色された色の上に被膜を作り，色を保護すると同時に光沢を出すためのものだ。

最後の水とぎとバフは，塗装面のデコボコを磨いてツルツルにするという作業だ。

表1

①下塗り――ラッカー(透明)
②中塗り――サンディング・シーラー
③着色――ラッカー(白，青，黒)
④上塗り――ラッカー(透明)
⑤水とぎ／バフ

図A



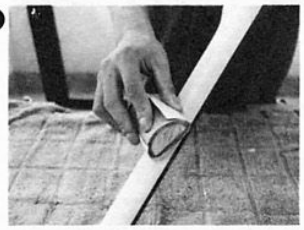
1 下塗り

●ラッカー(透明)

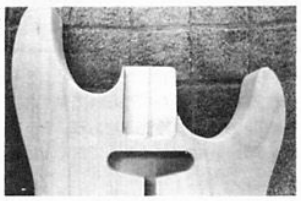
では順を追って説明していこう。

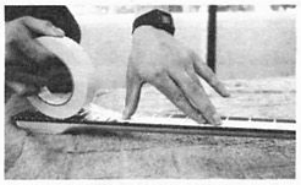
①，②スポンジ付のパット（→**ポイント1**）にサンドペーパーを巻きつけて，ボディとネックに最後の生地仕上げをする。サンドペーパーは＃150と＃240を使用。③～⑦色がのってはまずい部分――ネック・ポケット，指板，トラスロッド――にマスキング・テープを貼る（→**ポイント2**）。⑧写真のような柄を用意し(→**ポイント3**)，⑨ボディにネジ止めする。

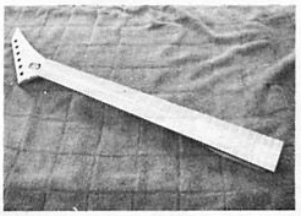
❶

❷


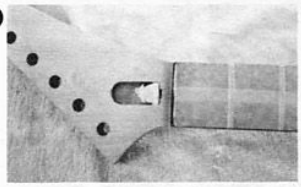
❸

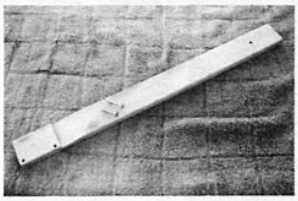
❹


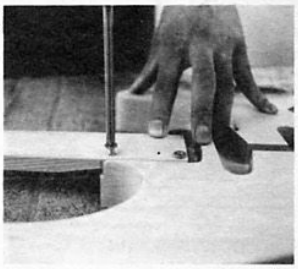
❺


❻


ここまでが下準備。ここからは透明のラッカーを吹きつける作業に入る。⑩ボディにつけた柄を持って，おしりの部分を塗ってしまう。⑪ボディを吊るす。⑫～⑱ボディのトップ，バック，サイド，カッタウェイの部分を塗る（→**ポイント4**）。⑲～㉒ネックも全体的に塗る。ネックの裏側を塗る時は，写真のようにペグ穴に太い針金を通して，上から吊るしてやろう（すでに塗ったところを手で持っちゃまずいので）。㉓吊るしたまま1日乾燥させる。なお，下塗りはボディ，ネック共1度塗りだけでよい。あまり塗料を厚くしてもアワができやすいだけで意味がない。

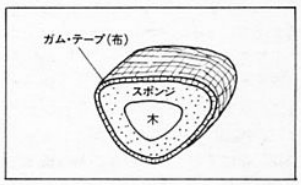
❼


❽


❾


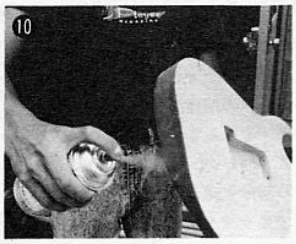
ポイント1
スポンジ付パット

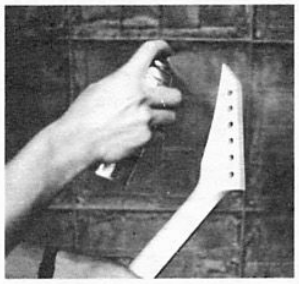
前回，前々回では木のパットを使っていたが，今回はスポンジ付きのパットを使おう。構造(？)は下の図のとおり。自分で作れるでしょ。



場所選び

塗装をする場所というのは結構問題だ。室内は換気や汚れのことを考えると，あまりおすすめできない。ガレージや庭があればよいけれど…。屋外でやる時はホコリに注意しよう。だから，適当な場所が見つからない人は，風のない夜に近所の公園へ行くとか…。うーん考えてくれ。





2 中塗り

●サンディング・シーラー

下塗りして1日置いておくと塗装面はザラザラになっている。㉔,㉕このザラザラを#320番のサンドペーパーで軽くこすってとる。㉖,㉗出てきた粉を油気のないやわらかな布（油は塗料をはじいてしまう）できれいにふきとる。㉘,㉙ボディ，ネックにサンディング・シーラーを吹きつける。これを一定の間隙を置いて2～3回やる（→**ポイント5**）。吹く要領は下塗りで透明ラッカーを吹いた時と同じだ。終わったら吊るして1日置いておく。

3 着色

●ラッカー(白,青,黒)

着色に入る前に少しやることがある。㉚まず中塗りして1日置いたボディ及びネックの塗装面全体に#320のサンドペーパーをかけて，吹き出た粉を拭きとる。キズなどが見つかったら，この時点で埋めておこう（→**ポイント6**）。㉛ヘッド側面にマスキング・テープを貼る。これはヘッドの表に黒を塗る時，側面まで汚してしまわないようにするためだ。㉜また，黒い塗料がペグ穴からヘッド裏にまわり込むことも考えられるので，そこを裏側からテープでふさいでおこう。

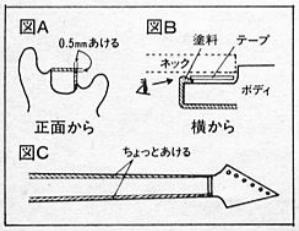
では着色に入ろう。まずはボディから。ラッカーを使う順番は白→青→黒だ。㉝白を全体的に塗る（今までと同じ要領で）。㉞1～2時間乾燥させる。㉟白の上から青を全体的に塗る。㊱1～2時間乾燥させる。㊲～㊵黒を徐々に塗っていく（→**ポイント7**）。㊶ボディの着色終了。

㊷ヘッド表に黒を塗る。ネックで着色するのはこの部分だけだ。

さて，着色が終わった後は1日乾燥させるわけだが，その前（黒を塗ってから20～30分後）に“色止め”というのをやっておいた方がよい。詳しくは**ポイント8**で。

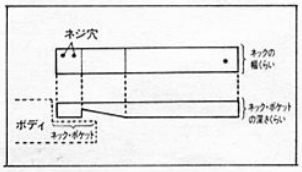
ポイント2
マスキング・テープ

マスキング・テープを貼る時のコツを教えよう。まずネック・ポケットは図Aに示してある部分を0.5㎜くらいあけておく。こうすると図Bのように塗料がのって，矢印の方向から見てもきれいだからだ。指板は図Cのように両はじをちょっぴりあけておくと，はがす時に安全だ。もしマスキング・テープを指板のふちギリギリまで貼っておいたとすると，テープの上にのった塗料につられて側面の塗料までハゲてしまう恐れがある。トラスロッドの部分は単にくるんでおくだけでよい。



ポイント3
ボディにつける柄

ボディにつける柄は図のようなもの。ネック・ポケットに当たる部分はザグっておこう。ネック製作時の余り木などを利用する。



ポイント4
スプレー塗料の使い方

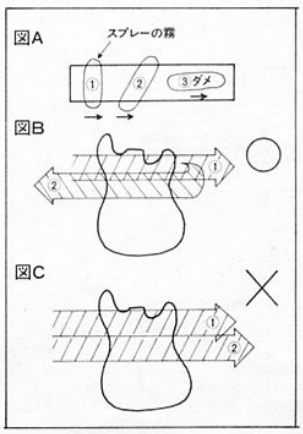
缶スプレーの塗料を使う時の注意点をいくつかあげておこう。

・スプレーと塗る対象の距離は，使うものにもよるが，だいたい10～15㎝。

・塗料の乗り具合いは，スプレーから出る量と，吹くスピードと，距離で調節する。あんまりゆっくり吹いてると，塗料がたれてくるので注意しよう。

・多くの缶スプレーは霧がタテ長に出るようになっている。ボディの側面を塗る時は図Aの①や②のように霧が当たるようにしよう。③はダメ。

・塗る順番は，塗り忘れやムラがなければどこからやってもよい。ボディのトップ及びバックは図Bのように，まず①を吹いたら，そのまま折り返して，①と半分重ねる感じで②を吹く，というやり方でやればムラができにくい。図Cのようなやり方はムラができやすいのでダメ。



ポイント5
中塗り（補足）

サンディング・シーラーを塗る回数は材の種類や生地仕上げの念の入れ方によって変わってくる。ここで使っているアルダー材の場合は2～3回やれば十分だが，生地仕上げをしっかりやっていない人はもっと多くやる必要があるかもしれない。また，一度に厚く塗って2回で済ませるより，薄めに何回も塗る方がアワ

㉔

㉕

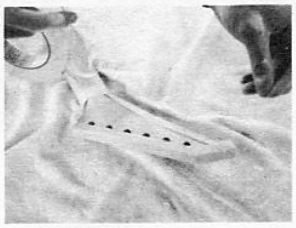
㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛


㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

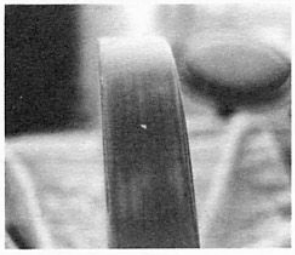
㊵

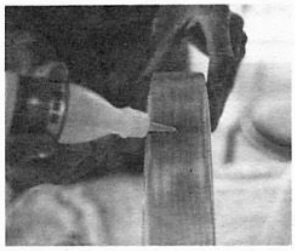
㊶

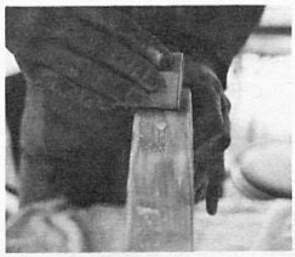
㊷

ポイント6
キズの埋め方

製作途中で小さなキズや穴ができちゃったら，着色の前に埋めておこう。やり方は写真のとおり――㋐，キズ発見！㋑，瞬間接着剤をたらす，㋒サンドペーパーで仕上げ。







ポイント7
黒を塗る時のコツ

サンバーストの部分は特に塗るのが難しい。コツを4つばかりあげておこう。

○トップ及びバックを塗る時は，まず端っこを全体的に黒くふちどりしてから，徐々に内側に入っていこう。この時，スプレーは常に図Aのような角度で。ぼかしの部分は自然に霧が散ってできる。決してボディの内側に向けて吹かないこと。また，無理に一周せず，図Bのようにちょっとずつやると失敗は少ない。

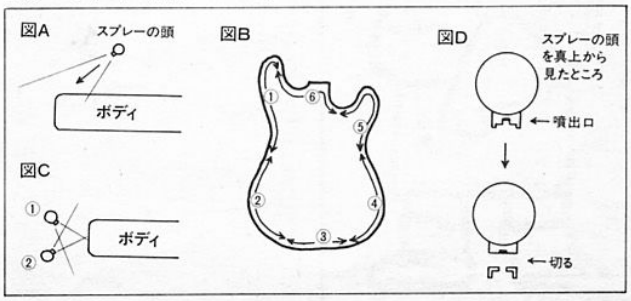
○サイドは図Cのように半分ずつ塗ろう。狙いがちょっとそれると，塗料がボディ内側にくい込んでしまうので慎重に。かといってあんまりのんびり吹いてると，塗料がタレてしまう。

○ポイント4のところでも言ったように，缶スプレーの霧はタテ長に出る仕組みになっている。しかし，サンバーストの部分を塗る時は，霧が円形になった方がはるかにやりやすい。そこで缶スプレーの噴出口の部分を図Dのように切りとってしまうことをおすすめする。

○いずれにしろ，ここは難しいので，本番前にいらない木で練習してみては？

ポイント8
色止め

着色して，それをそのままムキ出しで1日置いておくというのは，結構危ない。ホコリや指紋がついてしまうからだ。そこで着色後20～30分ぐらいの時に透明ラッカーを薄めに1回吹いておくと安全。これが“色止め”だ。あくまでも軽く吹くこと。厚く吹くと下地の色ごとタレてしまうこともある。後は1日乾燥。



ができにくい。各回ごとに一定の乾燥時間を置くわけだが，これは1時間ぐらいでよいだろう（別の塗料に移る時は1日ぐらいおかなくてはいけないが，同じ塗料を重ね塗りする時は比較的短い時間でかまわないのだ）。しかし，より丁寧にやりたい人は，1日おいて#320のサンドペーパーで平らにし，またサンディング・シーラーを吹く，というようにやるとよい。なお，初心者ははじめから2缶買っといた方が無難。中塗りの目的は塗装面を平らにすることであることを忘れずに。

4 上塗り

●ラッカー(透明)

塗装の最後の工程が“上塗り”だ。が，その前に忘れちゃいけないのがサイド・ポジション入れ。これは**ポイント9**を見てもらおう。

それで上塗りは，㊸，㊹透明ラッカーを7～8回，それぞれ1時間程度の間隙を置いて塗るだけ。ネックはヘッド側面のマスキング・テープをはがしておいてから塗ること。終わったら次の水とぎまでに1日乾燥させよう。

5 水とぎ バフ

さて，㊺ボディにつけた柄をとったら，ここからは磨く作業だ。

まずは水とぎ。㊻パットに#800のサンドペーパーを巻きつけ，水でぬらし，石けんをつける。㊼力を入れて塗装面をこする。しかしあまりこすり過ぎると下地が出てきちゃうので注意。㊽きれいな布で石けんをふきとり，㊾光を反射させて，ちゃんと平らになっているかどうか確かめる。㊿次にサンドペーパーを#1000に変え，こする。この時は写真のように一定方向で（→**ポイント10**）。同じく布で石けんをふきとり，ちゃんと平面になっているかどうか確かめる。終わったら1～2日置く。

次はバフだ。(51)コンパウンドをつけ，(52)布でこする。この時先ほど#1000のサンドペーパーでこすった方向とは垂直方向に。(53)最後にギター・ポリッシュで磨いて仕上げ。

ネックも同じようにやろう。

(54)マスキング・テープをはがしたら（→**ポイント11**）おしまい。もう1度最初のページの完了の図を見て欲しい。

＊

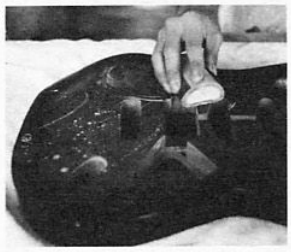
これで今回のペイント篇は終了だ。次の最終回“パーツ組み込み篇”は早くて来月，遅くともさ来月にはお届けする予定だ。じゃバイバイ！

㊸

㊹

㊺

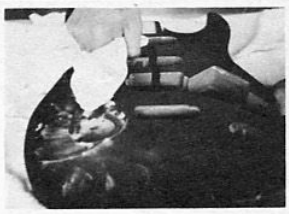
㊻


㊼

㊽

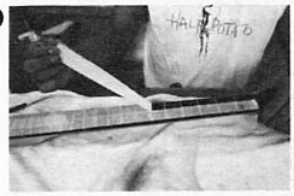
㊾

(50)

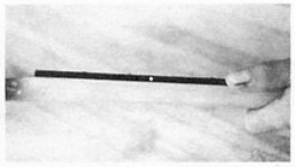

(51)

(52)

(53)


(54)

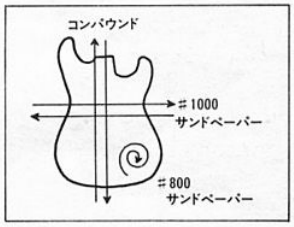
ポイント9
サイド・ポジション



サイド・ポジションはインスタント・レタリングを使おう。これを写真上のように指板側面にあてて，上からボールペンでこすれば，写真下のように付く。

ポイント10
水とぎ／バフ(補足)

水とぎの時，#800のサンドペーパーはどんな方向でかけてもよいが，#1000は一方向でかけるようにしよう。そして次にコンパウンドで磨く時は，それに対して垂直にかけよう。



ポイント11
テープをはがすコツ

指板に貼ったマスキング・テープをはがす時は，安全のために，写真のようにヤスリをかけ，テープ上の塗料と指板側面の塗料を切り離しておこう。でないとテープをはがした時，側面の塗料までハゲてしまう。

他の塗り方

今回の塗り方を応用してできるもの。

・ナチュラル――今回の着色の工程を省けばよい。

・無地――今回の黒を塗る工程（サンバーストの部分）を省けばよい。青や赤などの中間色を使う場合は，今回のように下地に白を塗っておくと，木目を完全につぶすことができる。

・シースルー仕上げ――シースルー系の塗料を使えばよい。

・エディ・ヴァン・ヘイレンのストラトのようなやつ――色①を塗ったら→マスキング・テープを貼る→色②を塗る→マスキング・テープ→色③……という具合い。